

H. M. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私がドイツに留学を目指したきっかけは、高校3年生のときに訪れたウィーンで、英語だけでなく第二外国語（ドイツ語）も話せるようになりたいと思ったからです。他にも理由が3つあります。1つ目は、ヨーロッパの文化や歴史に興味があったから。2つ目は、英語を共通語として話したかったから。そして3つ目は、旅行者としてではなく、住民として外国で生活をしたかったからです。留学を目指すきっかけとなったウィーンには、合唱の演奏旅行として訪れました。ドイツ語通訳者が同行していたり、英語も通じましたが、標識や周りの環境がドイツ語で囲まれていて、何が書いてあるか、何を話しているか理解できないことにもどかしさを感じた経験が元となり、ザールランド大学と協定を結んでいる同志社女子大学に入学し、ドイツ語と、もともと興味があったヨーロッパの文化、そして共通語としての英語を磨くためにドイツ留学を決意しました。ちなみに、大学卒業を延期したくないため、3年次の秋に1セメスター留学をすると決めていました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

英語に比べてドイツ語は、教材も少なければネットの情報も限られていたので、あるものをまずは手に取ってみるということをしていました。大学では、1年次からドイツ語初級、中級、上級の授業を受講していました。自宅では、ドイツの文化も同時に学べる、NHKの旅するドイツ語を毎週観ていました。2年次の夏休みには、京都のゲーティンスティチュートの施設でドイツ語の短期講座を受講しました。その後は、出願条件であるB1の受験に向けて単語を覚えたり、大学の図書館でドイツ語の文法書を借りて復習したり、B1の公式問題集に取り組みました。特に聞き取り問題は、CDをスマートフォンにインポートして、どこでも聞くことができるようにしていました。教材やテレビだけでなく、ネットも活用することで生きたドイツ語やドイツで使える簡単な表現も学びました。例えば、NHKラジオのまいにちドイツ語（入門編）、（応用編）やドイツ語教室 Vollmond のインスタグラムとツイッターをフォローしていました。

※英語は、ザールランド大学で、英語で開講される授業を取るために必要になると思い、IELTSを受験しました。また、英語英文学科のAESコースに入ることで、英語を使う環境を作りました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

・語学学習

大学で受講していたドイツ語上級と自宅での自主学習でした。他には、ドイツ語検定も受験しました。自主学習は、教材の問題を解いたり、②でも書いた NHK の語学番組やラジオ、SNS を継続して、ドイツに住むことを意識しながら新しい表現などをインプットしていました。

・航空券

Fix-open タイプの往復航空券をインターネットで購入しました。授業最終日やその後の予定がまだ分からなかったため、代金を支払えば復路便の変更ができる航空券にしました。

Fix タイプの航空券の方が安く購入できますが、飛行機の変更ができないため、Fix-open や Open タイプの航空券を買うことをお勧めします。

・ビザ

ドイツのビザは、現地の外国人局で申請します。日本ではドイツ大使館のホームページを閲覧し、必要な書類を確認しておくと思います。住民登録の書類を Welcome Center に提出すると、後日にビザの予約と提出書類の詳細が届きます。

・寮およびオンライン登録

Welcome Center や国際課から、寮の希望やオンライン登録(Online-Immatrikulation)に関するメールが送られてきます。寮が決まれば、その保証金や最初の 1 か月分の家賃の支払いに関するメールが送られてくるので、期日までに海外送金で支払います。オンライン登録は個人情報などを入力します。入力に戸惑う項目もあったので、入力開始前にガイドを読むと少し楽かと思えます。

・保険

ドイツで認められている保険に加入するように促されます。EU の保険会社に加入していない場合は、加入するよう勧められます。同志社の海外旅行保険（協定大学留学生は加入必須）は、この説明を聞く限り厳しいと判断したので、大学に支店がある保険会社の保険に加入しました。

④ 現地到着後

フランクフルト国際空港からは、フランクフルトで一泊した後、ドイツ鉄道の窓口で切符を購入し、ICE と EC で 2 時間半かけてザールブリュッケンに向かいました。その後、バスに乗り継いで寮へ向かいました。オリエンテーションは 2 回行われ、それぞれドイツやザールランドでの生活のアドバイス、そして履修登録について教わりました。ビザの提出書類の書き方も教わりました。

現地に到着してからは、住民登録や学生証の支払い、閉鎖口座の開設、普通口座の開設、保険の契約を語学学校が始まるまでにできるだけ済ませました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

ザールランド大学に付属している語学学校（Studienkolleg）で、キャンパス内にある ISZ で主に授業を受けます。コースは、ドイツ語の基礎的な文法などを学ぶ Deutschkurs I と、意見を交わしたり、プレゼンテーションをする Deutschkurs II の 2 つに分かれており、1 クラス 20 人程度です。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は週に 4 回、主に午前中に行われます。Deutschkurs I では、Grammatik（文法）、Leseverstehen（読解）、Hörverstehen（聞き取り）、そして Kommunikation（コミュニケーション）の 4 つの授業があります。課題は科目によって異なりますが、毎回課題が出されました。試験は、文法・読解・聞き取りの 3 項目に分かれていて、語学学校が始まる前に行われるクラス分けのテスト（プレースメントテスト）と最終試験の 2 つが主です。それ以外にも、Probe Klausur という試験が 3 つの授業でそれぞれ 3 回行われます。語学学校で受けた授業の単位は、最終試験に受かるともらえます。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

町の中心から離れているということもあり、カフェや図書館、本屋、食堂、ATM、散髪屋、ミニスーパーなどがあります。スポーツができる施設もあります。国際交流センターが主催するパーティーや、映画鑑賞会などもありとても充実しています。

◆ 履修科目

履修科目はインターネットで調べて登録します。留学生向けの正規科目の履修については、オリエンテーション時に国際課の方から頂いたのも参考になりました。英語で開講されている授業と、ドイツ語で開講されている授業を 1 科目ずつ取る予定でしたが、語学学校の課題が多かったり、授業時間と被っている科目が多かったので、基礎知識がある且つ日本の大学では経験することができないであろう、日本についてドイツ語で学ぶ授業のみ履修しました。

・ Japanische Landeskunde

日本について学ぶ授業です。今学期は、日本の政治や地理がテーマでした。授業後半は、週に受講生 2 人が日本の好きなテーマでプレゼンテーションをしていたので、その補足などもありました。

◆ 授業、レポート、定期試験

この授業は、ゼミナール形式です。出席、プレゼンテーション、レポート、記述試験によっ

て評価されます。日本人の先生が担当していますが、授業はドイツ語で進みます。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

大学では、日本語コースの授業のお手伝いを週に一度していました。他には、月に2回開催されているスタムティッシュ（Stammtisch）という、日本に興味のあるドイツ人と日本人が交流する会に参加したり、日本語を学ぶドイツ人とパートナーになり、楽しく会話しながらお互いの母語を教え合う、タンデム（Tandem）を月に2回大学のカフェでしていました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

半年間過ごした寮は、大学から送られた URL から住居の希望を提出して決まりました。大きく分けてアパートとシェアハウスの2種類がありましたが、初めての海外での長期滞在だったので、風呂場やキッチン等を一人で自由に使えるアパートタイプを選びました。現地学生も留学生も住んでいる約10階建ての建物に住んでいました。20㎡弱の部屋に電気コンロが付いたキッチン、机、椅子、ベッド、クローゼット、冷蔵庫、トイレ、洗面台、シャワー室といった必要最低限の設備が整っていました。食事は、お昼は食堂（Mensa）で食べることもありましたが、自炊する場合は、ミルヒライス（Milchreis）が日本米に近いと知り、それを炊くようにしていました。ドイツ料理は味の濃いものが多かったので、自炊はアジアスーパーやスーパーに売っている日本の調味料などを使って日本食を作っていました。寮から大学までの距離は徒歩30分、バスだと5分で着きます。町の中心まではバスで15分程度です。

⑨ 長期休暇の過ごし方

主に旅行していました。クリスマス休暇には、デュッセルドルフにいる友人を訪ねてクリスマスマーケットを一緒に巡ったり、ベルギー旅行に行ったり、日本から来てくれた姉とドイツ旅行をしました。お正月には、友達と日本のお正月らしく蕎麦やお雑煮を食べました。もちろん、語学学校や大学の課題もしました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていませんでした。SNSでクラスメイトがインターンに参加している様子を見て焦ることはありましたが、まずは留学を楽しむこと、日本に帰ってから切り替えて就職活動しても遅くないとアドバイスを頂いてからは、ドイツでの生活を充実させることを最優先にしていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは、クリスマス休暇や帰国直前に旅行したことです。ヨーロッパ留学の利点の 1 つは、ヨーロッパ内なら国境を気にせず簡単に飛び越えることができることだと思います。実際に私は 4 か国を旅することができました。もちろん、ドイツ国内もたくさんの街を巡りました。異国の地で、日本でもしたことのない一人旅もしました。更には、ドイツの国民スポーツであるサッカーの試合を、フランクフルトで、熱狂的な現地ファンに囲まれながら観戦しました。日本人選手も所属しているチームの試合を観ることができ、とても貴重な体験ができました。

最も思い出に残っていることは、ドイツ語ネイティブのタンデムパートナーとドイツ語と日本語の教え合いをしていたことです。パートナーは日本語を学び始めたばかりだったので、ドイツ語で会話をしていました。私の拙いドイツ語で説明する日本の文化や日本語文法の説明等を優しく聞いてくれて、「いつも前より上手になっているよ！すごい！」等の誉め言葉も言ってくれたおかげで、ドイツ語を話すことに対して常に積極的になることができました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

ドイツ語の語学学校の授業に慣れるのに一番苦勞しました。初めは、先生が言っていることがほとんど分からなかったため、キーワードを聞き取って、後は推測するというのを暫く続けていました。一語一句調べながら解く語学学校の課題と、学科の必修科目に匹敵するであろう英語で開講されている授業との両立ができず、結果、英語の授業を諦め、ドイツ語一本に絞ることを決意しました。埋められなかった必修科目を 4 年次の秋学期に取ることは少し気がかりでしたが、留学生活で病むことは避けたかったので、その授業の教授にもその旨を伝え、語学学校と、ドイツ語で開講されている *Japanische Landeskunde* のゼミナールのみ受けていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ドイツの仕事に関する考え方の違いに驚きました。日曜日にスーパー等、ほとんどのお店が閉まること。平日でも 18 時にはスーパーやレストラン以外のお店がほとんど閉まること。それから、バスの運転手の賃金によるストライキの 3 つ全てに不便に感じることもありましたが、ドイツで働く人たちの生活の質を高めるにはとても良いことだと感じました。他には、タバコのポイ捨て、路上喫煙が当たり前のようになされていたことです。ドイツの警察も勤務中にタバコを吸っていたので、その文化の違いには衝撃でした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点

- ・キャンパスの周りは森なので、自然豊かで治安が良い。
- ・日本人留学生が少なく、日本語に頼りすぎることがないため、ドイツ語が伸びやすい。
- ・日本語を学んでいる現地学生がいるので友達を作りやすい。
- ・学生証の提示で、州内の公共交通機関乗り放題及び、州立劇場のコンサートも無料で鑑賞できる。
- ・Wi-Fi が町の中心に通っている。電車にも通っているものがある。

悪かった点

- ・特になし

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

- ・パソコン：閉鎖口座を開設するときや PDF 等を印刷するとき、プレゼンテーションの準備をするときに役立ちました。大学にもパソコンは置いてありますが、それは使いませんでした。
- ・風邪薬：環境が変わって風邪をひくことが否めないなので、少しでも持って行くことをオススメします。
- ・日本食：アジアショップでも販売していますが、値段が高く、種類も少ないです。お茶、味噌汁、ふりかけ等、軽く簡単に食べられるものは一人暮らしにおいて重宝します。
- ・お箸：これもアジアショップで購入可能ですが高いです。
- ・変換プラグ・タコ足：C タイプのプラグ 1 つと、タコ足を持って行くことで、変換プラグ 1 つで複数の電子機器の充電などが可能です。
- ・エコバック：ドイツのスーパーでは袋はもらえません。
- ・生理用品：日本製品の方が上質のようです。
- ・旅行本：日本語で書かれたドイツの旅行本を 1 冊でも持って行くと良いと思います。
- ・調節しやすい服：夏から秋にかけて寒暖差が激しいです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学初期の語学力に比べると、成長しました。特に、耳がドイツ語に慣れた気がします。自身の性格はさすがに変わりませんが、日本語を学ぶドイツ人や、ドイツに在住している日本人等、人生の先輩と話す機会が増えたことで、たくさんの良い刺激をもらうことができました。そのおかげで、留学する前より自分に素直になったと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

自分を試す良い機会です！留学では、言語や文化といった今までの環境が変わるのはもちろんのこと、自身と向き合ったり、日本を客観視することができるチャンスが増えると思

ます。留学は楽しいことも苦しいこともあると思いますが、その経験はその後の人生において必ず役立つと思います。出願条件を元にしっかり勉強して、留学中はそのときにしかできない経験をたくさんして、留学を楽しんでください！心から応援しています。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

進路はまだ決まっていません。これから考える予定です。将来の目標は、もう一度ドイツへ訪れることです。そのときには、留学時にお世話になった方々と再会したいと思っています。もちろんドイツ語はこれからも学び続ける予定をしているので、特にタンデムパートナーと再会するときには、成長している姿を見せることができれば良いなと思っています。

V. 写真



ザールランド大学の正門



フェルクリンゲン製鉄所（世界遺産）